



わがふるさとの町の中心
美しく大いなる円き広場



清岡卓行展

——大連、パリ「円き広場」

2025年5月24日(土)～7月27日(日)

〔開館時間〕 9時30分～17時(入館は16時30分まで) 〔休館日〕 月曜日(7月21日は開館)

〔観覧料〕 一般500円(350円)、65歳以上・20歳未満及び学生250円(200円)、高校生100円(100円)、中学生以下は無料

* ()内は20名以上の団体料金

〔主催〕 県立神奈川近代文学館、公益財団法人神奈川文学振興会

〔後援〕 日本現代詩人会、**NHK**横浜放送局、**FMヨコハマ**、**神奈川新聞社**、**tvk**

〔協賛〕 講談社、思潮社、東急電鉄、横浜高速鉄道、神奈川近代文学館を支援する会

〔広報協力〕 **KAAT** 神奈川芸術劇場

横浜・山手港の見える丘公園内

県立 神奈川近代文学館

Kanagawa Museum of Modern Literature

〒231-0862 横浜市中区山手町110 TEL.045-622-6666

<https://www.kanabun.or.jp>

〔最寄り駅〕 東急東横線直通・みなとみらい線

元町・中華街駅6番出口から徒歩10分

清岡卓行展

——大連、パリ「円き広場」——

日本の租借地だった中国・大連で生まれ育った詩人、作家の清岡卓行(1922-2006)。1959年に詩集『氷った焰』でデビューし、10年後に取り組んだ小説「アカシヤの大連」で芥川賞を受賞、以降は評論や随筆と併せて多彩な作品を生み出します。

その創作の大きな源となったのが、失われたふるさと、大連への思いです。東大在学時の帰省中に迎えた敗戦と3年間の残留、引き揚げ、そして無一文からの生活再建……清岡はしだいに「大連と自分は結びついているという運命感」を深く意識するようになります。一方、64歳で初めて果たしたパリ訪問をきっかけに、兩大戦間のこの街に花開いた芸術家たちの姿を描いた大作『マロニエの花が言った』(1999年)を上梓します。

本展では夫人の岩阪恵子氏(作家)から受贈した原稿をはじめとする資料を中心に、清岡がこよなく愛した二つの都市——「宿命の土地」大連と憧れの地パリとのかかわりを通して、その生涯と作品をたどります。

表面写真:右から時計回りに 清岡卓行 1959年8月 撮影・伊達得夫／パリ鳥瞰図(屏風)より 大佛次郎旧蔵 大佛次郎記念館蔵／大連大広場 『満洲風物写真帖』(1933年8月)より

本展会期中のイベント ※詳しくはホームページ等でご確認ください。

- ・①②④＝要事前申込。お電話(045-622-6666)またはホームページの申込フォームで、お名前・電話番号・希望日・人数をお知らせください。料金は当日のお支払い、先着順で定員になり次第締め切ります。
- ・会場:①②④＝展示館2階ホール(各日定員220名)、③＝展示館1階エントランスホール

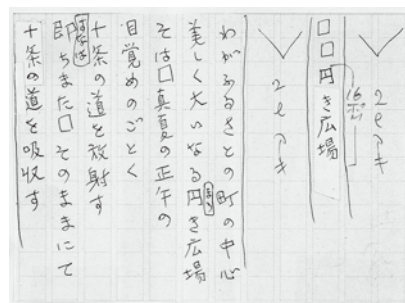
①清岡卓行展記念対談「父のいるところ——『幼い夢と』と『其処』」
6月21日(土) 14:00～
出演:清岡秀哉(清岡卓行末子、デザイナー、ギタリスト)、日和聡子(詩人、作家)
料金:一般1,200円(友の会会員1,000円)

②文芸映画を観る会「女だけの都」
7月19日(土) 13:30～
1935年 フランス モノクロ 109分 DVD上映 監督:ジャック・フェデー
出演:フランソワーズ・ロゼー、アンドレ・アレルム ほか
展示担当職員によるアフタートークあり
料金:一般1,000円(友の会会員800円)

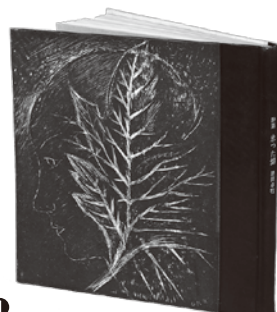
※文芸映画を観る会(当日入会可・無料)及び神奈川近代文学館友の会向け会員制行事です。

③清岡卓行展スライドトーク(職員による展示説明)
6月7日(土)、28日(土)、7月6日(日)、21日(月・祝) 各日14:00～
参加無料(要展示観覧料)・申込不要

④戦後80年記念対談「母たちの戦後」
7月12日(土) 13:30～
出演:太田治子(作家)、荻野アンナ(作家、神奈川近代文学館館長)
料金:一般1,300円(友の会会員1,000円)



①



②



④



③

①「円き広場」詩稿

大連に帰郷した20歳の夏に作った詩。〈東洋のパリ〉を目指して整備された街の中心の円形広場を歩きながら、清岡は詩作への「精神的な目覚め」を感じたという。『円き広場』(1988年10月 思潮社)に収録。当館蔵・岩阪恵子氏寄贈(以下*)

②「氷った焰」

1959年2月 書肆ユリイカ 表紙画・岡鹿之助 装幀・沢田真知 当館蔵

③清岡卓行 プロ野球公式試合終身入場パス

引き揚げ翌年の1949年に日本野球連盟(のちにセ・リーグ事務局へ移る)に就職した清岡は「猛打賞」を発案、試合日程の編成を13シーズン担当した。*

④岡鹿之助画「段丘」

1978年 油彩・カンヴァス 1955年に岡と出逢った清岡は、その作品を深く愛し、遺作となった本作にちなんだ詩「段丘の空」を故人に捧げた。小説「マロニエの花が言った」の作中でも若き日の岡の姿を描いている。

個人蔵・群馬県近代美術館寄託

〈東急東横線直通・みなとみらい線〉

元町・中華街駅下車

6番出口(アメリカ山公園口)から徒歩10分

〈バス〉

・神奈川中央交通バス⑩系:

桜木町駅～保土ヶ谷駅

・横浜市営バス⑩系:桜木町駅～山手駅

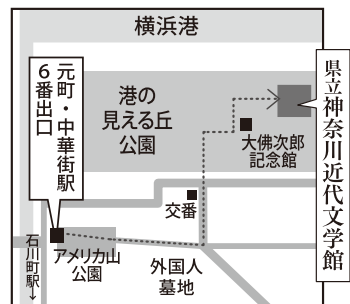
・観光スポット周遊バス「あかいくつ」

いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分

〈JR根岸線〉

石川町駅下車 元町口(南口)から徒歩20分

ACCESS



※ 駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。



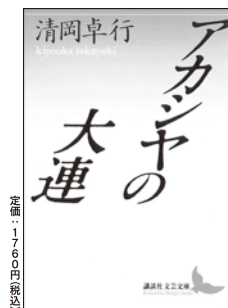
清岡卓行詩集 現代詩文庫5 1650円

続・清岡卓行詩集 現代詩文庫126 1650円

続続・清岡卓行詩集 現代詩文庫165 1282円

定本 清岡卓行全詩集 19800円

思潮社 〒112-0014 東京都文京区関口1-8-6-203 www.shichosha.co.jp



第62回 芥川賞受賞 『アカシヤの大連』

大連に生まれ育った彼は、敗戦で故郷を喪失した。平穏の日々の中、心に巣喰う欠落感。果てしない郷愁をこめ、青春の大連を清冽に描く、芥川賞受賞の表題作をはじめとする全6編を収録。

電子版も好評配信中 <http://bungei-bunko.kodansha.co.jp>

清岡卓行の世界 講談社文芸文庫で読む